

鈴木優人 (チェンバロ) とバッハ・コレギウム・ジャパンの仲間たち

1部

王宮のコンセール 第1番 ト長調 (トリオ) …… F.クープラン

フランス組曲 第4番 変ホ長調 BWV815 (チェンバロソロ)
…………… J.S.バッハ

フルートとオブリガート・チェンバロのためのソナタ
ロ短調 BWV1030 …………… J.S.バッハ

2部

恋のうぐいす …………… F.クープラン

オーボエとオブリガート・チェンバロのためのソナタ
ト短調 BWV1020 …………… J.S.バッハ

クラヴサン曲集 第2巻 第6組曲より (チェンバロソロ)
…………… F.クープラン

5番「神秘的なバリケード」

6番「牧歌」

王宮のコンセール 第4番 ホ短調 (トリオ) …… F.クープラン

夏

2018
四季コンサート
35周年記念

2018年7月2日(月) 18:00開場 18:45開演

会場: アクトシティ浜松中ホール

主催: 浜松音楽友の会

プロフィール

鈴木優人 (チェンバロ)

1981年オランダ生まれ。東京藝術大学及び同大学院修了。オランダ・ハーグ王立音楽院修了。第18回ホテルオークラ音楽賞受賞。鍵盤奏者 (チェンバロ、オルガン、ピアノ) として国内外の公演に多数出演。指揮者としてはこれまでバッハ・コレギウム・ジャパン (BCJ)、九州交響楽団、読売日本交響楽団、東京交響楽団等と共演。音楽監督を務めるアンサンブル・ジェネシスでは、オリジナル楽器でバロックから現代音楽まで意欲的なプログラムを展開。作曲家としても数々の委嘱を受けると同時に、J.S.バッハ BWV 190喪失楽章の復元 (Carus) や、モーツァルト「レクイエム」の補筆・校訂 (Schott Music) が、高い評価を得ている。NHKFMの「古楽の楽しみ」にレギュラー出演。調布国際音楽祭エグゼクティブ・プロデューサー、舞台演出、作曲とその活動に垣根はない。昨年11月には、モンテヴェルディ生誕450周年を記念し、歌劇「ポッペアの戴冠」を国際的に魅力に富む歌手陣で上演。高い芸術性と優れたキャスティングを生かした躍動感を伴った上演はバロック・オペラの新機軸として高い評価を得た。2018年2月のBCJ定期演奏会では指揮者として、J.S.バッハヨハネ受難曲に出演。

<http://suzukimasato.com/>

鶴田洋子 (フラウト・トラヴェルソ)

東京藝術大学器楽科卒業、アムステルダム音楽院古楽科 (オランダ) 卒業。モダンフルートを鈴木章浩、高市紀子、金昌国、中野富雄、木ノ脇道元、ハリ・スタレフェルド各氏に、バロックフルートを前田り子、マルテン・ロート、菅きよみ各氏に師事。これまでにオランダ・バッハ教会、バッハ・コレギウム・ジャパンなどと共演。スイス、ザンクトガレン・バッハ財団とのカンタータ全曲録音に参加している。室内楽にも積極的に取り組む、特にバロックからロマンティックのフルートを吹くラケル・マルトレル・ドルタとのイン・メロディック・スタイル・デュオでは楽器のデモンストレーションを交えた演奏会をオランダを中心に各地で行っている。



荒井豪 (オーボエ)

鎌倉出身。12歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部を卒業。13年プレーメン芸術大学大学院古楽器科に入学。15年ベルリン芸術大学大学院古楽器科に入学。ベルリン古楽アカデミー等、ヨーロッパ各地の主要なオーケストラと共演。15年からはバッハ・コレギウム・ジャパンのメンバーとして定期演奏会や、その他のプロジェクト・録音に参加している。これまでにモダンオーボエを中山正瑠、関水萌子、浦丈彦、嶋崎耕三の各氏に、バロックオーボエを尾崎温子、クセニア・レフラーの各氏に師事。バリオド楽器、モダン楽器の壁を越えてバロックから近現代まで演奏の幅を広げている。



<http://go-arai.com/>

河府有紀 (ファゴット)

桐朋学園大学音楽学部にてファゴットを岡本正之氏に師事し、2013年首席で卒業。同大学卒業演奏会、第83回読売新人演奏会に出演。同年渡独し、ミュンヘン音楽大学修士課程にてエバーハルト・マーシャル氏に師事。第40回エムスビューレン音楽祭 (ドイツ) に招かれ、エムスランド交響楽団とウェーバーのファゴット協奏曲を共演。地元紙オスナブリュッカー新聞に取り上げられ絶賛される。2015年最優秀の成績で修了し帰国。小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVに参加。古楽アンサンブル「ブレイヴィオロン」や東京シンフォニエッタのメンバーとして古楽から現代音楽まで幅広く取り組んでいる。



鈴木優人 (チェンバロ) と
バッハ・コレギウム・ジャパンの仲間たち



MASATO SUZUKI &
FRIENDS OF BCJ

この度は歴史ある「浜松音楽友の会」にお招きいただき、心より光榮に思います。

バッハ・コレギウム・ジャパンは、バッハの時代の楽器と演奏法を研究、使用することにより、理想的にバロック音楽を上演することを目的に私の父により1990年に創設されたオーケストラと合唱で、今年で創設28年を迎えます。今年も歴史あるライプツィヒ・バッハ音楽祭およびゲヴェントハウス、またバッハの生地であるテューリンゲンのバッハ音楽祭などでも演奏して参りました。

本日はそのバッハがフルートとオーボエのために書いた2つのソナタと、バッハが深く影響を受けたフランスバロックの珠玉の作品たちをお聴きいただきます。フリードリヒ大王やルイ14世になった気分でお楽しみいただければ幸いです。

鈴木 優人

曲目解説

堀内 彩虹

●F.クーブラン／王宮のコンセール 第1番 ト長調

フランスの宮廷音楽家を務めたフランソワ・クーブラン(1668-1733)は、芸術を愛したルイ14世のために合奏曲を作曲し、毎週日曜の演奏会で最晩年の王を愉ませた。それらはのちに《王宮のコンセール》として出版された。いずれも5～7楽章の舞曲組曲の形式をとっている。第1番は、抒情的な旋律を伴った重厚なプレリュードで始まり、軽快なアルマンドへ。サラバンド、ガヴョット、ジークを経て、最終楽章はメランコリックに揺れ動くメヌエツで締めくくられる。

●J.S.バッハ／フランス組曲 第4番 変ホ長調 BWV815

《フランス組曲》は《イギリス組曲》と比較すると小規模でありながら、軽やかで変化に富んだ作風をもつ。しかし、その成立と普及の歴史は複雑だ。最も古くは1720年代に書かれた自筆譜と、それに基づき1740年代に作成されたアルトニコルの筆写譜が存在する。この二つの間にほとんど相違はないが、それ以後の多くの筆写譜には初稿と異なる様々な装飾音が記されている。こうした記録は、バッハが行った模範演奏や弟子への指示を含むものと考えられ、この作品が教育の素材としても重要視されていたことを示唆している。第4番は、舞曲組曲の伝統的形式であるアルマンド、クーラント、サラバンド、ジークに加え、当世風舞曲のガヴョットとエール(メヌエツを含む版もある)が挿入されている。

●J.S.バッハ／フルートとオブリガート・チェンバロのためのソナタ ロ短調 BWV1030

フルートの多彩な音色をあえて瞭然たる線に収斂させているという点で印象深い作品。全体において、チェンバロの右手、左手、フルートの三者が対位的に緻密に絡み合っている。第1楽章が曲全体の約半分を占め、優雅な第2楽章、小気味よい第3楽章へと続く。

●F.クーブラン／恋のうぐいす

鳥を題材に用いた作曲家は、バッハ、ヴィヴァルディ、ラヴェル、リスト、メシアン…と枚挙にいとまがないが、クーブランもまた鳥を扱ったクラヴサン作品を数多く作曲した。人はしばしば鳥の鳴き声に「歌」を見出し、その美しい歌声を音で再現しようと試みてきた。この曲にも装飾音を伴って反復されるモチーフに夜鳴きうぐいすのさえずりの模倣がみられる。

●J.S.バッハ／オーボエとオブリガート・チェンバロのためのソナタ ト短調 BWV1020

J.S.バッハの作品として知られているが、実際には作曲者は不明であり、以前語られていたC.P.E.バッハ作曲説も現在では否定されている。全体に禁欲的な中に時おり現れるのびやかな旋律を断続的なチェンバロの刻みが寄り添うように支えている、一体感のある作品。

●F.クーブラン／クラヴサン曲集 第2巻 第6組曲より 5番「神秘的なバリケード」 6番「牧歌」

クーブランによる標題付き音楽の対象は、自然の風物から生活の身近な事物や人物まで幅広い。興味深いのは、対象をただ写實的に音にするのではなく、対象に対する自らの想念を重ねて描き出そうとしている点である。さすれば、これらの作品は、対象のありようのみならず、クーブランが対象と交差した出来事を映し出しているといえよう。第2巻の音楽では、リュートの技法を巧みに採り入れながら、ソプラノとバス間の緊密な対位法関係を構築し、リュートでは不可能だった幅広い音域、柔軟な転調を含んだ様式を完成させている。

●F.クーブラン／王宮のコンセール 第4番 ホ短調

第4番は、中盤の対比的な二つのクーラントが特徴的。第3楽章「フランス風クーラント」と第4楽章「イタリア風クーラント」が並べられている背景には、当時の音楽界に顕著だったフランス趣味とイタリア趣味の対立が感じられる。短調で始まるが、第6楽章リゴードンで上昇する清々しいモチーフを繰り返しながら終局へとつなぎ、最後は気まぐれで愛らしい楽章で幕を閉じる。